



せんだん

学校教育目標

「進んで学び、心やさしく、たくましい児童の育成」

No.19 令和7年1月23日 校長 松本 成浩

「相手の身になる」という感覚を当たり前のものに

4年生が福祉について学ぶために、アイマスク体験と車椅子体験を行いました。どちらの体験にしても、上手に支援・お手伝いをしていくために共通するのは、物理的補助はもとより、相手の身になって考え、心理的な不安に丁寧に対応することだと感じました。障害になりそうなものを察知したら、予め伝え、次にどう動くのかの心構えをもってもらうことで、安心して安全な行動がスムーズに行えます。よく考えたら、障がいのあるなしに関わらず、誰に対しても日常生活の様々な場面で配慮したいことですよね。子供たちの体験の様子を見ながら、すべての人が住みやすい世の中にするために、当たり前の感覚にしていきたいと感じたところです。



交通指導員、子ども見守り隊、こども110番の家の皆様 いつも、ありがとうございます！！

二里町では、子供たちの登下校の安全確保や見守りをしていただくため、3名の交通指導員の方と子ども見守り隊の皆様が暑い日も寒い日も毎日毎日、熱心に活動していただいています。また、こども110番の家においては、非常時の駆け込み場所として、また、登下校中の見守り等で多くのご家庭やお店にご協力いただいています。お陰様で、大きな事故や事件に巻き込まれることなく、子供たちが安心して生活することができています。何より嬉しいことです。心からの感謝を申し上げます。皆様、子供たちのこともよくご存知で、やさしく声も掛けていただいています。

本当にありがとうございます。これからも、どうぞ、よろしくお願いいたします。



ユートク裏側での登校時の見守り



110番の家の目印です

3年生、企業見学で「かねは食品」へ

伊万里市では、児童生徒に市内にある企業についての理解と啓発を図る目的で、市内企業見学事業が行われています。本校でも、3年生が大坪町にある

「株式会社かねは食品」を訪問しました。辛子明太子で有名な同社の工場内を見せていただき、たくさんの従業員の方が衛生面に気を配り、一つ一つ丁寧に作業されている様子を見学しました。明太子がコンベアーの上を次々に流れており、子供たちは大変驚いていました。

